

連載 ◆ フランク・ロイド・ライトに魅せられて

古本 竜一

ロビー邸



ロビー邸（1908年）は、ライトの生涯の中でも代表作として知られる。ライトがサリヴァンから独立後、最初の作品となるウィンズロー邸（1893年）をプレイリー住宅の初期とすると、ロビー邸はこの時代の最後期に属し、初期作品からおよそ15年の歳月が経っている。明快な違いとしては、壁で構成されていた初期の建物・ウィンズロー邸に比べ、ロビー邸は開口で構成され、プレイリー住宅の形態が明確に表現されている。大胆なフォルムで道に沿い、その長い外観が迫力ある形態を成している。木々と緑地帯に囲われた緑豊かなアメリカ的な街角にあり、三方を道路に接した東西に横長の敷地の中にきっちり収まっていることを、プランからも確認できる。

ロビー邸は3階建てのレンガ造りである。1階の床は道路よりやや低いと思えるほどの設定で、主にビリヤードと子ども部屋となっている。2階は居間と食堂が間仕切りなしで長く続き、暖炉がその機能を分ける。3階ではその巨大な暖炉の煙突は寝室群の一部となっている。大きく長い片持ち（15インチ＝約45センチの2本の造船用H鋼）で突き出す2階の屋根と、3階の木造屋根とが重層し、全体はあたかも“軍艦”の様相で、ゴシック建築やヴィクトリアン建築を見慣れた当時の人々にとっては、受け入れ難い異様な建物だったに違いない。実際、大きな煙突が付いた“蒸気船”とあだ名が付けられたそう。

ユニバーサルなビル群が続くダウンタウンを抜け、シカゴ大学のファシリティが点在する区画を過ぎると間もなく、非常にシンプルなロビー邸の短手サイドが見えてくる。ライトに設計を依頼したロビー氏は自転車製造業で財を成した人物だが、道を行き交う人にその姿を見られることなく3階の寝室からミシガン湖を眺めたいと要求したという。しかし今では、背後にエーロ・サーリネン設計のシカゴ大学の寮があるなど、周囲は建て込んでいて、もはや湖を見渡すことはできない。

往時の雰囲気は様変わりしたようだが、ロビー邸自体は保存状態も非常に良かった。NPOの「ライト・ホーム&スタジオ財団」が直接管理しており、ガレージを売店に改造し、参考書籍やTシャツなどのライトグッズを販売して得られた収益や入場料が保全修理の費用に充てられている。私が視察した当時は建物の内外で修繕が行われていたが、今は綺麗になっているかもしれない。ライトの建築は全米からツアーが組まれるなど、次々に見学者が訪れ、国宝級の建物として大切にされている。ライトへの大いなる敬意を強く感じる。



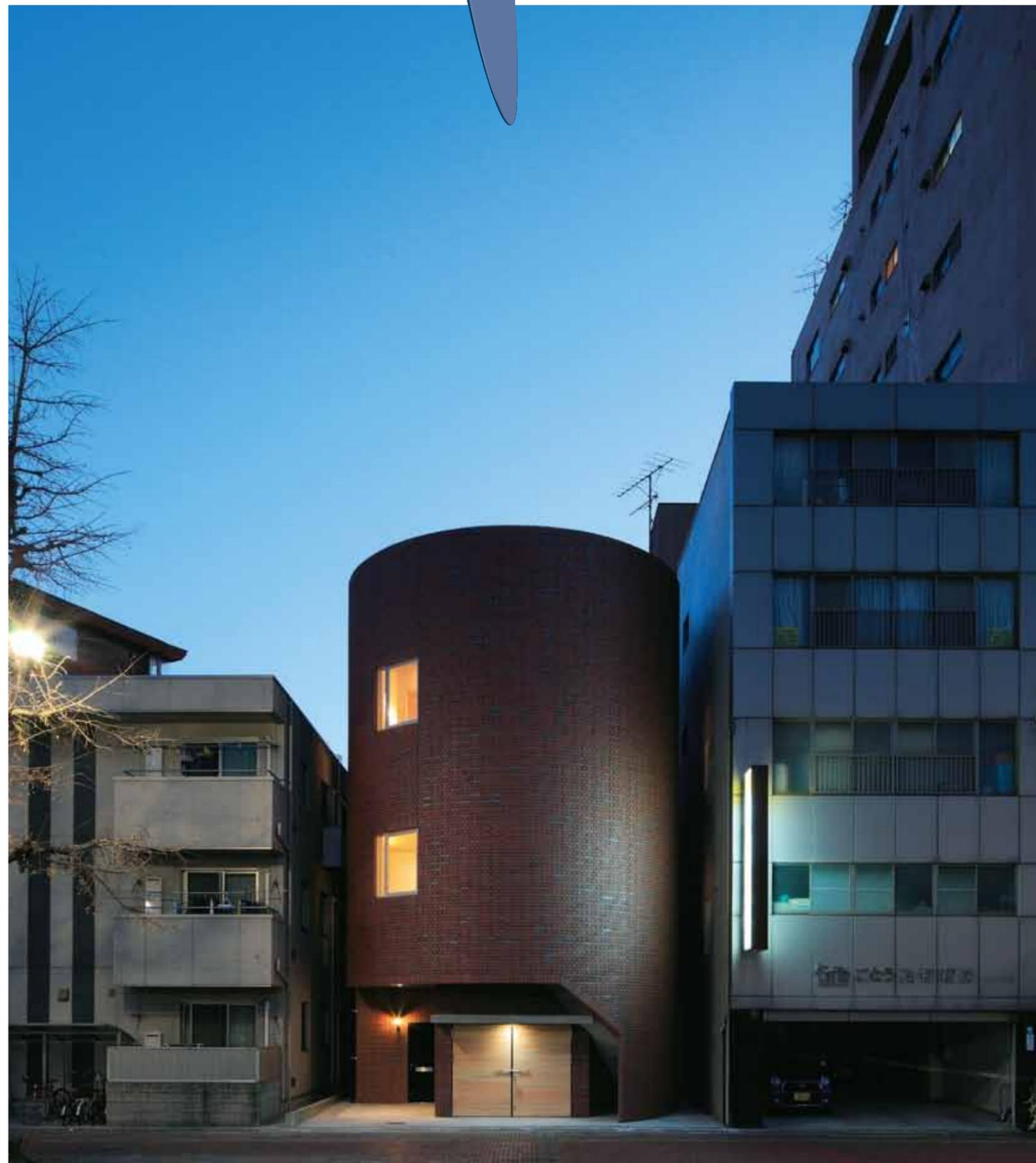
参考文献 ★三沢浩著 「フランク・ロイド・ライトのモダニズム」(彰国社)

MONTHLY 建築士 HIROSHIMA No.99 平成27年2月1日発行
発行 公益社団法人 広島県建築士会 〒730-0052 広島市中区千田町3丁目7番47号
TEL (082)244-6830(代) FAX (082)244-3840 URL <http://www.k-hiroshima.or.jp/>
e-mail : info@k-hiroshima.or.jp

発行人 会長 元廣 清志
編集人 広報委員長 神岡 千春

MONTHLY 建築士
No.99

IROSHIMA



表紙写真について

呉中通りの家

- 設計監理／一級建築士事務所 9月の風
飯田修平＋千代昌美
- 構造設計／SAK構造設計 咲賀岳男
- 施工／大之木建設株式会社 岩本誠司
- 所在地／呉市中通4丁目
- 構造規模／RCラーメン構造 地上3階建て
軒高11.05m 建物の高さ12.30m
- 基礎／直接基礎（ベタ基礎）
- 敷地面積／105.64㎡
- 延床面積／198.98㎡
- 用途／一戸建て専用住宅
- 撮影／株式会社ライフマーケット 中尾俊之

敷地は、幅の広い道路に面してはいるが北向きである。裏側は現在駐車場で、今は十分な採光が得られている。しかし、いつ如何なる建物で南面を覆われるとも限らない。計画は、住宅の設計において限りなく初歩的な発想から始まった。

道路側を吹き抜けとして大きなスカイライトを置き、天空から降り注ぐ光線を曲面壁へ反射させ、内部空間に十分な明かりを到達させている。南側にはゆったりとしたインナーバルコニーを配し、穏やかな庭としての役割を



持たせている。

クライアントは、伝統を慮り檜と畳を内装に、外装は呉の街並みに古くから伝わるレンガ張りを希望された。また多趣味でもあり、炉を切った本格的な茶室や、7.1chの音響設備と映画スクリーンのある娯楽室もあり、所有されるスポーツカーごと出入りできる玄関も気に入ってもらっている。

建物の前と後ろにある吹き抜け・インナーバルコニーは、大通りの喧騒と商店街が突き当たる商業地域として、人の住処に対するバッファゾーンという役割を兼ね備えているのである。

CPD認定プログラム(2月の広島県内実施分)

1月22日現在

日時	プログラム名	単位	主催	連絡先
2/12	建設工事実務講習会	6	日本建築協会中国支部	082-232-6471
2/17	講演会「太陽光発電設備の品質とはなにか?」	2	電気設備学会	03-6206-2720
2/18	一級/二級/木造建築士定期講習(6D-06)	6	広島県建築士会	082-244-6830
2/20	IT活用による現場の業務効率化と人材育成のためのコミュニケーション	6	インターウェーブ	099-812-0677
2/20	建物外皮性能に関わる断熱・遮熱技術セミナー	3	環境マテリアル推進協議会	03-3258-4188
2/24	建築設備 総合講習(広島)	7	建築設備技術者協会	03-5408-0063
2/27	「建築物荷重指針」改定講習会(広島会場)	6	日本建築学会	082-243-6605
2/27	広島県産横架材スパン表説明会(広島)	3	広島県林業・木材産業活性化推進協議会	082-272-4553
2/28	広島県産横架材スパン表説明会(尾道)	3	広島県林業・木材産業活性化推進協議会	082-272-4553
2/28	住宅講演会「日本の木の住まい」	3	広島県建築士会	082-244-6830

ふるじえくと ニュース

●福山支部 第17回「建築なんでも探建隊 WS」 紙ぶるるで学ぼう! ～建築士と学ぶ防災対策～

福山市の過去に起こった災害や活断層がある地域を知り、地震に弱い建物を学べる教材(紙ぶるる:ペーパークラフト)を使って、揺れの違いを体験学習し、防災についてみんなで考えます。

- 日時: 2月15日(日) 13:30～16:30
- 会場: 福山市市民参画センター4階会議室1
(福山市本町1-35)
- 参加費用: 500円
- 対象: 小学生～中学生
- 申し込み
広島県建築士会福山支部事務局
(返信はがきを送付しますので、必ず申し込みをして下さい。)
TEL: 084-923-4820 FAX: 084-923-5639
E-Mail: kenchiku-shikai@fk-kaikan.com

●社会活動委員会 住宅研究会 住宅講演会のお知らせ 「日本の木の住まい」～家づくりの知恵は伝統のなかにあった～

「オークヴィレッジ木造建築研究所」所長の上野英二さんを講師にお招きし、木の住まいについてご講演いただきます。皆様のご参加をお待ちしています。

- 日時: 2月28日(土)
14:00～17:00(13:30開場)
- 会場: 広島市まちづくり市民交流プラザ
「マルチメディアスタジオ」北棟6階
(広島市中区袋町6-36)
- 参加費用: 無料(先着100名)

住まいは、人々の心に明かりをともし、安らぎを与える空間でありたいものです。そのためには、最新の多くの知識を詰め込むだけでなく、木に触れ、職人と共に考え、現存する伝統建物に身を置き、五感を通して考えることが大切だと思います。
(上野英二氏 談)



指定確認検査機関(中国地方整備局長指定第1号) 登録住宅性能評価機関(中国地方整備局長登録第5号) 登録建築物調査機関(中国地方整備局長登録第1号)

認定低炭素住宅 長期優良住宅 建築確認 住宅瑕疵保険 フラット35 適合証明 住宅性能評価 住宅省エネラベル

ハウスプラス中国は
迅速、的確な審査で、皆様の建物の
安全、安心をサポートします。



中国エリアをすっぴんカバーしています

Energyia
ハウスプラス中国住宅保証株式会社
http://www.jutakuhosho.com/

広島本店: 広島市中区国泰寺町1-3-32 国泰寺ビル1階
TEL: 082-545-5607 FAX: 082-545-5608
広島北支店: 広島市安佐南区西原6-9-40-7 TEL: 082-832-3310 FAX: 082-875-4330
福山支店: 福山市西深津町1-10-1 TEL: 084-973-9143 FAX: 084-973-9146

既存建築物の耐震診断・改修計画判定業務を行っています

(既存建築物耐震診断・改修等推進全国ネットワーク委員会加入)

- 指定確認検査機関
- 登録住宅性能評価機関
- 指定構造計算適合性判定機関
- 登録建築物調査機関
- 適合証明業務(フラット35)
- 長期優良住宅認定審査業務
- 住宅瑕疵担保責任保険業務
- 調査診断業務(耐震診断等)
- 耐震診断判定業務
- 住宅エコポイント関連業務
- すまい給付金関連業務

URL <http://www.jesupport.jp/>

皆様に、より良いサービスの提供に努めてまいります



株式会社 ジェイ・イー・サポート

代表取締役 石山 講

本社 〒730-0029 広島市中区三川町7-1

TEL: 082-546-1378 FAX: 082-249-7190

e-mail: mail@jesupport.jp

支店: 東京 営業所: 呉

広島県庄原市東城町を活動拠点とする「東新会」は、平成3年に創立。建築関係に携わる人たちと、まちづくりに興味のある人たちとで構成され、主に地域の資源を活用するまちづくりを行っている団体です。

東城町のまちづくり



庄原市東城町東城地区は中国地方の中山間地域に位置し、鳥取県と岡山県の県境にある。室町時代より「まち」が形成され始め、現在も江戸時代初期からの城下町としての歴史ある町割り、商家・町屋のある町並みが残る。近郊の山で採取された鉄の集積地と、河川による船便の中継地・商いと宿場町として栄えた町である。

しかし少子高齢化による過疎化の影響も大きく、商店街は空洞化。荒廃した空き家・空き地が目立つようになり、古くからの町並み景観が壊れつつある現状もある。

平成22年5月、地域内の街道の歴史と町並み景観等が評価され、国土交通省「夢街道ルネサンス」の「街道東城路」として認定された。しかし、歴史ある街道と並行して、国道バイパス延伸、県道拡張工事も進んでいる。私たち「東新会まちづくり協力隊（以後、東新会）」は、道路完成後の課題として、新しく形成されるまちと、古くから形成されたまちのバランスも考慮したまちづくりを考えるグループとして活動している。

平成23年・24年と国土交通省の「住まい・まちづくり担い手事業」の助成を受け、広島県建築士会の専門家・サポーターの派遣（延べ10名）も受けて、より専門的な活動を進めてきた。その成果として、東新会と住民等とで将来の地域の町並みづくり&環境整備&景観形成を図ることを目的として、平成23年に「町並みづくりのガイドライン案」を作成した。

町並みづくりのガイドライン案



東新会まちづくり協力隊 県北支部 榎原 節男

ヤマモトロックマシン建物群との出会い

平成24年度には、地域内の企業「ヤマモトロックマシン(株)」の旧自治寮建物の活用を考える目的で、所有者・地元住民・東新会会員・専門家・サポーターと共同でワークショップを開催。建物調査・図面作成、数候補の活用方法の提案づくり等の活動を実施した。その過程で平成26年8月と11月、試験的に建物を活用したイベントを開催した。

- 8月 ボランティアによる大掃除会、建物再調査
建物見学会、専門家による講演（延べ70名）
- 11月 公開イベント（10日間で延べ1,200名来場）
会社と建物の歴史の部屋設置
芸術家による展示会、建物見学会等



地域住民、専門家、サポーターとのワークショップ



建築士による建物調査



専門家による講演会



建物の掃除会



建物の見学会



建物掃除会参加者

ヤマモトロックマシン工場と旧自治寮について

平成27年2月に創立100周年を迎える、国内有数のさく岩機製造メーカーである東城の地元企業の建物群を紹介する。今回紹介する建物群は、昭和9年頃より建設が始まった木造建築であり、現在も工場として稼働している建物群と、旧自治寮の建物群である。特筆すべきは、建設当時より工場及び旧自治寮には水道・下水道・自家発電が整備されていたことと、東城町の大工棟梁一曾田敏郎氏が建設したことである。

ヤマモトロックマシン(株)は、大正末期から昭和初めにかけて、帝釈峡発電所ダム工事に当たり導入された外国製さく岩機の修理・部品補給を引き受けたことから、国

【ヤマモトロックマシン工場と建物群】

工場建物群は東城川に沿って南北に整然と建設されている。昭和初期建築の建物群は木造建築であり、ほぼ建設当時の状態で残っている。特長は、建物群の中心をなす第一機械工場である。近世ヨーロッパのバジリカ式教会堂のような形式を取っており、モダンとレトロの融合された建物でもある。現存の木造建物群はそれぞれ異なる木造トラスの骨組みの空間を構成している。



第一機械工場 外観



第一機械工場 内部



内初のさく岩機製造・販売に着手した会社で、国内に6つの拠点を持っている。

会社と建物の歴史年表

- 1915年（大正4年）山本鑄造鉄工所として創業
- 1927年（昭和2年）工場拡張、設備増設
- 1934年（昭和9年）第一機械工場他建物完成
- 1937年（昭和12年）旧自治寮完成（3階建 食堂・浴場棟舎）
- 1938年（昭和13年）青年学校建物完成
- 1939年（昭和14年）本社を東京丸ビルに置く
- 1941年（昭和16年）旧自治寮（2階建）建物完成
- 1998年（平成10年）広島県の近代化遺産・広島県教育委員会
広島県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書掲載

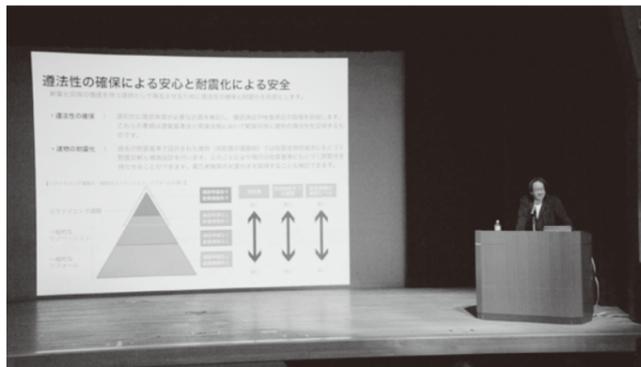
【ヤマモトロックマシン旧自治寮と建物群】

木造3階建（旧家族寮）・木造2階地下1階（旧独身寮）・木造2階建（食堂棟）・木造平屋建（倉庫棟）・便所棟・食料保管庫棟（漬物小屋建物等）・変電所・給水タンク塔・消防ポンプ小屋によって構成される。浴場棟・舎監用住宅は解体のため現存していない。旧家族寮は、外観は洋風。瓦は珍しい欧州風で、一際目を引く建物である。旧独身寮は片廊下式のシンプルな構成である。

第一機械工場は平成26年10月、広島県が県内の魅力的な建築物を紹介する事業「ひろしまてものがたり」において、専門家を選ぶ「ベストセレクション30」、並びに一般の方の投票による「ベスト30」に選ばれました。この機会に建物の見学希望者が増える予想されますが、原則、建物は非公開ですので、見学等は建物見学会等のイベント時をお願いします。イベントは定期的で開催する予定ですので、「<http://www.facebook.com/YRMPtojo>」をご覧ください。
★「ヤマモトロックマシン(株)」様への直接電話での問い合わせ・訪問等はご迷惑を掛けますので絶対におやめください。

第31回 呉建築セミナー「リファイニング建築とは」

呉地区支部総務委員会 武内 盟子



昨年12月12日（金）開催の第31回呉建築セミナーでは、リファイニング建築の第一人者である青木茂先生を講師にお迎えしました。冗談も交えながらの講演で、会場には笑い声が上がり、本当に楽しく興味深く聞くことができました。

私は建物のリフォームでは、色を塗り替えたり、間仕切りをやり変えたりが関の山で、既存のイメージというものは必ず残ってしまうものだと思っていました。ところが、青木先生のリファイニングは違います。そのままの改修ではなく、不要な部分は除却し、スラブも撤去し、見た目も使い勝手も思い切り刷新してしまうという、ものすごいものでした。「清瀬けやきホール」はその最たるもので、耐震補強の壁や柱がデザインとなり、既存の面影は皆無の、モダンでとても印象的な建物に生まれ変わっています。

先生のリファイニングのすごいところは、現行法規にすべて適合させ、検査済証まで取得してしまうところです。まさに、「再生建築」そのものだと思います。

作品の中には、「戸畑図書館」のように歴史的な意匠はそのまま残しながら、地域の産業である鉄を使って、補強とは思えない美しいフレームで耐震補強されたものもあります。

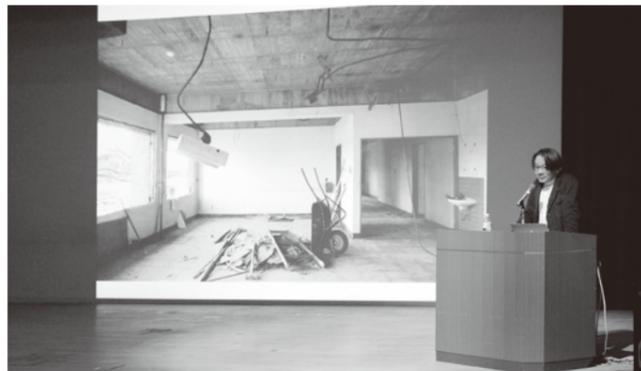
フローからストックの時代になった今、ますます先生の時代が来ると感じました。

先生が掲げておられるリファイニング建築の5原則をご紹介します。

- ①内外観ともに新築と同等以上の仕上がり
- ②新築の60～70%の予算
- ③用途変更が可能
- ④耐震補強により、現行法規及び耐震改修促進法に適合する
- ⑤廃材をほとんど出さず、環境に優しい

この5原則に、先生がおっしゃる「母（愛する人）のために設計する」というエッセンスが加わり、使う人に優しい建物が生みだされているのではないのでしょうか。私たち建築を業としているものにとって、これからの主流になるストックの活用についての貴重なお話を聞くことができ、本当に実り多いセミナーとなりました。

青木茂先生、ありがとうございました。



県外研修会 奈良を巡る

呉地区支部青年委員会 日浦 心一

昨年11月8日、9日に呉地区支部の平成26年度県外研修会を開催しました。今年度の研修場所は奈良県です。

朝7時の出発でしたが、バス内では「法隆寺」のDVD観賞や仕事の話に花を咲かせ、約400kmの道のりもあっという間でした。

日本最初の世界文化遺産である「法隆寺」は、飛鳥時代の姿を現在に伝える世界最古の木造建築物として広く知られています。私は小学生の時以来の参拝で、懐かしさと共に歴史と美しさを感じることができました。

「薬師寺」の大伽藍は金堂を中心に東西に東塔、西塔があり、造りを見比べながら拝観することができるのですが、現在は東棟が解体修理中で見ることができませんでした。

「元興寺」の極楽堂は鎌倉時代に導入・確立した新しい技術や様式が使用されています。正面の柱間を6間の偶数としているため、真ん中に柱がある珍しい特徴を備えたお堂です。墓股や藁座、木鼻は時間と手間がかかっ

ていて、凝った造りになっています。

また「奈良ホテル」は、明治42年に「関西の迎賓館」として奈良公園内に誕生しました。明治・大正時代を代表する建築家、辰野金吾氏の設計による桃山御殿風檜造りの本館は、随所に創業時のマントルピース（暖炉）が残り、絵画を設えるなど迎賓館時代のクラシックな優雅さが漂っていました。中でも吹き抜けのエントランスは圧巻で、折上げ格天井で天井高さ9mの大空間は息を呑む美しさでした。

県外研修は普段見ることができないところを見学することができ、建築物様式や納まりなど、たくさんの知識を得ることができるのが魅力だと思います。

来年度はどこに行くのか、今から楽しみです。



尾道探訪 1

6月13・14日に尾道で開催される「青年・女性建築士の集い 中四国ブロック 広島大会」開催まで、あと4カ月余りとなりました。このコーナーでは、5回シリーズで尾道のミニ情報をお伝えします。

尾道支部 米田 雅治

尾道の老舗旅館—その1「魚信」

尾道水道に面して建つ割烹旅館「魚信」は、100年以上上経っている数寄屋造りの老舗旅館です。昭和25年頃に増改築工事を行い、3階建てに増築。その後は昭和52年頃、海岸通りの市道拡張で建物を一部削って扉を後ろに下げた他には、外観はほとんど変わっていないそうです。

内装は細かい細工の施された数寄屋造りで、天井、床柱、内窓など部屋毎に趣向を凝らした意匠で、当時の数寄屋大工の意気込みが感じ取れます。尾道には大正から昭和初期にかけて商家の別荘等として建てられた数寄屋建築がたくさん残っています。それらの古い建物は文学資料館になったり、迎賓館になったりと、空き家の公共利用が増えていますが、現役で使われている「魚信」は一見の価値があります。「古い建物は古い友達」というように、価値のある存在として手入れを怠らず、維持管理に努められているそうです。

「魚信」は尾道の小魚を味わえる宿として有名ですが、特にオコゼ料理が絶品。高度成長期には向島から「日

立造船」、三原から「帝人」のお客様がタクシーで乗り付けられていたそうです。大林監督の映画のロケにもたびたび使われ、TVの取材も何度もされています。現在では数寄屋造りの建物を目当てに来られる観光客も多いそうです。宿泊だけでなく宴会、食事もできますので、尾道にお越しの際はどうぞご利用ください。なお、事前に昼食を予約すれば、3階の「初音」という部屋を見学させてくれるそうです。詳しくは下記のHPを参照してください。

<http://www.uonobu.jp/index.htm>



安全で安心な住まいづくりをサポートします。

◆ 建築確認・検査

◆ 住宅性能評価

◆ フラット35適合証明

◆ 長期優良住宅技術審査

◆ 低炭素建築物技術審査

◆ 住宅かし担保責任保険

住宅保証機構(株) (まもりすまい保険)

(株)住宅あんしん保証 (あんしん住宅瑕疵保険)

(株)日本住宅保証検査機構 (JIOわが家の保険)

(株)ハウスジューメン (ハウスジューメン住宅かし保険)

ハウスプラス住宅保証(株) (ハウスプラスすまい保険)



指定確認検査機関・登録住宅性能評価機関

株式会社 広島建築住宅センター

URL:<http://www.hkjc.co.jp>

本社 〒730-0013 広島市中区八丁堀 15-10
TEL(082)228-2220 FAX(082)228-2231
営業所 〒720-0034 福山市若松町 8-22
TEL(084)928-3979 FAX(084)928-3974